



天上はるかに

秋高東京同窓会会報

2013年11月
錦秋号

秋田高校東京同窓会
〒106-0032
港区六本木 5-16-5
インベリアル六本木 1001
鎌田会計事務所内
TEL 03-5545-7775
FAX 03-5545-0087
http://www.shuko-ob.net/

2014年
1月25日(土)
アルカディア
市ヶ谷

大学生との交流会 (13:00 ~)

新春賀詞交歓会 (16:30 ~)

2014年の呼びかけです。

「140年の集い」にはさまざまなご協力、参加、支援ありがとうございました。今年、『秋高健児の“天上はるかに・・・啓天愛人理想を高く、おのれを修めて世のためつくす”』の校歌はどの場で、どの人、どの想いで、そして故郷秋田をいかにと、この首都圏で斉唱できるのでしょうか。

恒例の若き学生との交流会そして新春賀詞交歓会に是非ご出席ください。

待ってるす。

2014年の担当年度幹事は「4」のつく卒年のS 14、24、34、44、54、H 4、14 卒です。参加を特によろしく。

受	付	12:30
大学生との交流会		13:00 ~ 16:30
宮田陽・昇漫才		16:30 ~ 17:00
賀詞交歓会		17:00 ~ 20:00
会費	7000円	学生 3000円



『2014新春漫才』
漫才コンビ「宮田陽・昇」

私、漫才師をしております宮田陽（みやたよう）という芸名で、宮田昇（みやたしょう）という相方とコンビを組み、浅草演芸ホールや新宿末広亭など都内の演芸場に日々出演している、いわゆる寄席（よせ）芸人ってヤツです。（秋高同窓会だよりより）

平成11年8月 漫才コンビ結成
平成13年5月 宮田章司一門に入門
受賞歴
平成16年 第3回漫才協会主催漫才新人大賞・優秀賞
平成17年 第4回漫才協会主催漫才新人大賞・大賞
平成24年 平成23年度（第66回）文化庁芸術祭賞
大衆芸能部門新人賞

アルカディア市ヶ谷
(市ヶ谷駅前)

〒102-0073
東京都千代田区九段北 4-2-25
TEL 03-3261-9921
FAX 03-3261-9931



橋本五郎の
AKITA
元気トーク

秋高東京同窓会会長
橋本 五郎



母は永遠なり

秋田県山本郡三種町にある「橋本五郎文庫」で、「母への手紙」を募集しました。お母さんに直接言うのは恥ずかしい、あるいは感謝を伝えようにも、もうこの世にはいない。そう思っている人にお母さんへの手紙を書いてもらおうという試みでした。1310通の応募がありました。全国はもとより、海外からもいただきました。

審査のため、通勤の行き帰り、講演に行く飛行機の中で読みました。一つ一つの作品から、かけがえのない人生の重みが伝わってきます。涙が止まらず、周りの人に気づかれないようにするのに苦労したほどでした。

最優秀賞に選ばれた作品は、出奔した母と30数年ぶりにバス停で会う場面から始まります。いくら待っても待ち人は現れない。実は母と子はベンチの端と端に座ってお互いに気づかなかったのです。子どもはその後「お母さん」と呼びません。自分を捨てた母を恨んでいるからではありません。「お母さん」と呼ぶとどうしても甘えが付きまとうからです。それでは、70近くまで看護婦として懸命に働いてきた一人の女性の姿を見失ってしまうからだということです。

「母への手紙」を読みながらつくづく思いました。母とはなんと限りなく大きくて深く、そして強い存在なのだろう。それに引き換え、父の存在は残念ながらもともと希薄なのだろうと

秋田高校創立140周年・東京同窓会の集い



平成25年7月6日(土)、ハイアットリージェンシー東京において「秋田高校創立140周年東京同窓会の集い」が開催されました。同窓生は東北支部や茨城支部からも参加、水戸一高をはじめとして他校からも多数の参加者を迎え、賑やかな会となりました。

第一部のシンポジウム会場の中央にはUstream配信用のカメラが設置され、遠隔の地からでも会に参加できるような新しい試みも行なわれました。シンポジウムの冒頭では秋高140年の歴史をスライドで上映、草創期の頃、高校野球での活躍、度重なる校舎移転の様子など、意外に知らなかった事も多く、興味津々で見入りました。

記念シンポジウムは「私の秋高時代、あの時代……。そしてこれから」ということで、コーディネーターの橋本五郎東京同窓会会長(S40年卒)の進行で、大先輩の元国連事務次長の明石康さん(S23年卒)から始まり、直木賞作家の西木正明さん(S34年卒)が続き、文化放送アナウンサーの石川真紀さん(H5年卒)、書評家の土井英司さん(H5年卒)から高校時代の思い出が話されました。校舎を点々とする事を余儀なくされたなどの話もありましたが、皆さんが一樣に言われた事は、優れた恩師に恵まれ、今の自分があると



いう事でした。さらに、いろいろ意見を伺いたいところでしたが、時間が少々不足したようです。

第二部は、隣の部屋に会場を移しての祝宴、ただ、その前に恒例の同窓会総会を事務的行なった上で、本番に入りました。豊口祐一本部同窓会会長（S34年卒）、高橋貢校長（S47年卒）、寺田和夫同窓会事務局長（S41年卒）の挨拶に続き、来賓の小野清子様（北高）、高橋陽之助様（秋田工業ラグビー部）にご挨拶をいただき、乾杯は再び明石康先輩に登壇いただき高らかに140周年を祝す盃を挙げ、菊地康正さん（S47年卒）率いるジャズバンドの演奏が始まり、会場は一気に盛り上がり、たちまちそこそこに団欒の輪ができ、話の尽きることがありませんでした。さらに、この日は大胆な企画があり、パリで開かれている日本博に出展している秋田のブースとの間で国際ネット中継が行なわれ、会場のスクリーンに百瀬和さん（S56年卒）の姿が映し出されるや会場は多に盛り上がり、まさに

国際化時代に相応しいイベントでした。

宴もたけなわ、次々と来賓が登場、秋高連高橋実会長、東京志道会（水戸一高同窓会）保坂賢司さん、三平俊悦さん（秋田工業、秋田ふるさと応援団）から祝辞をいただき、休む間もなくベンチャー企業経営の平野春夫さん（S50年卒）、矢留会（野球部OB会）小玉正志さん（S54年卒）、ラグビー部尾形均さん（S44年卒）から近況報告がされるが、いつの間にか応援歌の合唱になり、負けじと38、39、40年卒の混成チームによる青春歌の大合唱で、会場は最高潮に達しました。そして、恒例の校歌斉唱、しかし今回はその前に校友会歌のおまげが付き、これも恒例となった佐藤映さん（S60年卒）の応援団指揮のもと、高らかに歌って幕となりました。最後に二木猛実行委員長（S39年卒）からお礼の言葉と本部秋田の記念式典への参加要請、来年の秋田での国民文化祭への参加の呼びかけがあり、閉会となりました。



本部の創立140周年 記念式典・祝賀会に出席して

横山 樹静 S30 卒

秋高創立140周年記念式典は9月1日（日）の10時から秋田市の県民会館で開催され、その後の祝賀会は13時30分からお濠向かいの秋田キャスルホテルの法光の間で開かれた。台風15号の本土接近中による夜来の雨も、当日は上がって天気恵まれての式典と祝賀会であった。

式典の県民会館へは、生徒達の「こんにちは」と気持ちの良い挨拶を受け会場に迎えられ、明るい若者達の挨拶にしばし自分の生徒時代に想いを馳せらせて呉れた。式典には全生徒（860人）が出席して、その両側と後の席に父兄やOBが座り総数約1300人の出席者で盛会であった。

式典の次第を記して紹介する。司会と運営は全て2年生生徒達で行われ、①修礼、②物故者への黙禱、③開会のことば（生徒）、④国歌斉唱、⑤校長挨拶（高橋貢・混沌の今なればこそ歴史に名を刻む仕事を）、⑥同窓会長あいさつ（豊口祐一）、⑦来賓祝辞（米田進教育長）、⑧生徒代表あいさつ（佐々木捷3年生前生徒会長・本校の自主自立の精神で日本・世界の中で活躍し

たい）⑨学校功勞表彰、⑩校歌斉唱、⑪閉会のことば（生徒）⑫修礼、で終わった。その後休憩を挟んで記念講演があり、橋本五郎当会会長の「真のリーダーとはどうあるべきか」の演題で（事前準備に裏付く揺るぎない確信を持った信念で事に当たることが肝要）話された。その1時間もの講演の間には全く咳声のない生徒達の真摯な拝聴姿勢には心を打たれた。その後引き続き行われた吹奏楽部生徒による「威風堂々第5番」等4曲の演奏で閉じたが、素晴らしい式典であった。

午後の祝賀会は卒業年度毎のテーブルが用意され、我が昭和30年卒は10名参加（式典は13名）で卒業以来58年振りの人も半数おり久しい会話と酒肴で盛り上がった。我々の時の80周年記念式典は校舎脇の土手下グラウンドでやったなあ等と懐かしい話題もでた。最後は参加者約400人が肩を組んで校歌と校友会歌を斉唱し万歳三唱で終わった。

会長の橋本五郎さんの記念講演もあり、7月6日の東京同窓会記念総会に本部から高橋校長や豊口同窓会長、寺田事務局長達も出席さ



れたので、東京同窓会からも本部式典に出席しようと鎌田進幹事長からの発案があり、二木猛副会長以下総勢6名の諸氏の参加となった。前日の朝早くの新幹線で盛岡経由花輪駅に行き、大野省治副会長が借りたレンタカーで彼の運転でついでに秋田を廻ったのである。雨中の十和田湖畔等を廻って宿泊の秋田キャスルホテルに夕刻に着くも、早速にそれぞれが市内に出て在秋の同期生と夜の郷里を楽しんでいた。

式典の次の日以降は大本香津子・百瀬和両幹事の計画案に沿って角館に立ち寄り、安藤味噌醸造元やクラフト店香月（かずき）、樺細工伝承館等を雨中に廻って鶴の湯まで足を延ばした。鄙びた秘湯を満喫しながら、その翌日は玉川温泉や後生掛温泉、わらび座それに田沢湖湖畔等を見学して田沢湖駅から帰途に就いたが、大雨で線路に立木が倒れるなどで新幹線が立ち往生して3時間程の遅れで東京駅に着いた。翌日新幹線代は払い戻され酒代に変わったなどがあったこの度の秋田周遊であった。



東京同窓会に参加して

工藤義寛 H6 卒

母校が創立140周年であることを知り、東京同窓会へぜひ参加したいと思いました。懐かしさや、学び舎への想いを共感したい気持ちもあったのでしょう。岩手一関からの初参加でしたので、最初は緊張気味でしたが、友人と待ち合わせで会場入りする頃には、すっかりリラックスしていました。シンポジウムでは大先輩のお話をじっくり聞くことができ、教育の大切さを痛感し、懇親会は秋田県人らしく、お酒が進むにつれご一緒させていただいた方々と打ち解け合いました。今年の七夕は織姫と彦星にも負けない、「出会い」を楽しみました。工夫を凝らしたイベントを企画していただいた同窓会事務局の皆様には感謝致します。



尾形均 S44 卒

平成25年7月13日、土曜日、大安吉日。この日が来るのを一年前から今日か明日かと待っていた。雨にならなければ良いが。秋田高校創立140周年記念祝賀会の日である。朝から快晴。こんな空を秋田では古くは秋田晴れと言っていた。秋田から同窓会会長、校長、水戸一高同窓会はじめとする多くの方が来賓の席にあった。

毎年行われる同窓会ではあるが、今年は140周年の重みからかいつもと違う緊張した空気が会場を支配していた。平年は型どおりの挨拶のあと乾杯、懇談となるが今回は特別企画があった。

橋本五郎さん司会による明石康さん、西木正明さん、若手OBによるトークショーがプログラムに盛り込まれてあった。私は明石さん、西木さんのファンであり信望者である。人生に道草が有っても良い。半ばで立ち止まって振り返ることが大切だ。明石さんの言葉は簡単なことば、飾らない言葉であったがその一語一語に力が有り、何事にも動じない大人(たいじん)を思わせるに充分であった。

物事を為した人とはこういう人のことを言うのだと私は思った。もう一方の西木さん。モノを書くことは恥をかくことだ、が頭から離れない。この夏、「月光の奪還」を幻冬舎から出版した伊藤基(もと)の出版記念パーティに出た時、私はその言葉を来場の皆さんに披瀝した。時に秋高の諸先輩のことを口外し、自身の面目を保っているつもりである。

僅かな同窓会会費ではあるがそれを支払うことができる今日、気後れや後ろめたさを感じることなく140周年の記念祝賀会に出席できたこと、自分が幸運だと思った。

高島知行 S60 卒

平成25年4月に東京に転勤となり、初めて東京の同窓会に参加させていただきました。140周年東京同窓会はすばらしいものでした。記念シンポジウムにおける4名のパネラーとコーディネーターの橋本さんのそれぞれ示唆に富んだお話には聞き入ってしまいました。

アトラクションで次々繰り広げられるパフォーマンス、斬新でした。特にパリのジャパンエキスポに参加している百瀬さんが、パリから映像を届けるという試みには感銘しました。同窓会を通じて交流させていただいた皆様、本当にありがとうございました。

須田紘彬 H16 卒

平成16年3月卒の須田です。今回は東京同窓会幹事会を手伝わせていただきながら、初めて同窓会のイベントに出席をいたしました。事前の打ち合わせでは、綿密で機知に富んだ計画をお聞きしていました。パネルディスカッションでは各世代の思い出を振り返りましたが、先生にはあだ名をつけるなどいつの時代も変わらない共通点の話の際にはついつい笑みがこぼれてしまいました。その他にもライブあり、フランスとの中継あり、インターネット中継ありと、多彩なコンテンツでどこにいても参加できるイベントというのは、もっと多彩な参加の仕方ができ、発展していけるのではと期待

しています。

その歴史があって、今の秋高があるんですね。今後ますます秋高が発展して行くことを期待しております。

今回は、記念シンポジウムを一番の楽しみに参加しました。コー



待っています。

高路直樹 S55 卒

秋田高校 創立140周年記念祝賀会

秋田高校 創立140周年記念祝賀会

秋田高校 創立140周年記念祝賀会

秋田高校 創立140周年記念祝賀会

秋田高校 創立140周年記念祝賀会



ディネーターの橋本会長をはじめ、パネラーの明石さん、西木さん、石川さん、土井さんのお話を聞いて、その活躍の原点は秋高時代にあると確信し、140年という歴史の中にいた自分を少し誇らしく思いました。

シンポジウムの中で、橋本会長の「汝 何の為に其処に在り也」という恩師の言葉が印象に残りました。私の場合、秋田県の教育長をされている米田進先生が3年の時の担任でしたが、先生に迷惑をお掛けした思い出しかありません。先生ごめんください。

同窓会の余韻に浸りながら、同期の加藤仁君と一緒に、中学の同級生が店長をしている金太楼鮎上野店でちょっと一杯。来年の参加を約束し帰途につきました。



秋田高校同窓会仙台支部より

新田目倅造 S30 卒

(S 36 年卒、第 19 代東北大学学長)をお願いしています。

また、今年 8 月の仙台市長選挙で再選された奥山恵美子氏 (S 42 ~ 43 年秋田高校在学) は全国の政令市で初めての女性市長で、支部総会では毎回市制などのお話をいただいております。仙台圏には約 600 人の同窓生がいますが、総会には 100 人近くが一堂に会して、親睦交流を深めております。最近、秋高校歌と逆に、天を敬わず、人を愛さず、理想を低く、己を修めず、世のためにつくさない人が増えておりますが、総会の締めくくりには「啓天愛人理想を高く、おのれを修めて世のためつくす」校歌を斉唱して秋高魂を鼓舞しております。

先日は秋田高校創立 140 周年東京同窓会の集いに参加して、明石康さん、西木正明さんなど同窓の著名なパネリストの含蓄あるお話をお聞きでき、有難うございました。橋本五郎会長には秋田での創立記念講演も拝聴させていただきましたが、「汝、なんのためにそこにありや」については小生も時々思い出して自省しています。

秋田高校同窓会仙台支部は、昭和 48 年発足で、平成 9 年の総会を最後に休眠状態になっていましたが、相澤雄一郎現支部長 (S 28 年卒、元河北新報常務) ほか有志の熱い思いによって、平成 20 年 11 月、再興第 1 回総会を開催し以降毎年 11 月に総会を開催しています。副支部長には千葉勝司氏 (S 29 年卒、元東北電力) と小生 (S 30 年卒、元東北電力常務)、幹事長に神谷謹一氏 (S 37 年卒、元東北電力) ほか幹事 3 名で運営しています。顧問には世界の電算機の主流となった垂直磁気記録方式の開発で日本のノーベル賞とも言われる 2010 年日本国際賞を受賞された岩崎俊一氏 (S 19 年卒、東北工業大学理事長)、吉本高志氏



他校の皆さん多く参加ありがとうございました。

祝 秋田高等学校創立 140 周年

秋田県立雄物川高等学校同窓会
関東支部理事 近江 彰

秋田県立秋田高等学校は、1873 年 (明治 6 年) に洋学校として秋田市に開校以来、1901 年 (明治 34 年) に秋田県立秋田中学校、1953 年 (昭和 28 年) に秋田県立秋田高等学校と改称し、常に秋田県の中等教育をリードし日本高等学校でも指折りの伝統校として多くの人材を輩出してこられました。

2013 年 7 月 6 日に開催の東京同窓会の高校創立 140 周年記念の集いにご招待いただき、本校同窓会関東支部の加賀支部長と出席させていただきました。国際、文化、経済、メディアなど各界で活躍されている年代を超えた同窓生の方々にパネリストにお招きしての記念シンポジウムは、大変興味深く拝聴させていただきました。パネリストの先生方の秋高在校時代と卒業後のキャリアに違いはあっても、その生き方に「汝、なんのためにそこにありや」の精神が体现されていることに強く感銘いたしました。

我々他校出身者にとって、文武両道に秀でた優秀な生徒が学ぶ県内トップの高校が今後も他の高校の規範となるように永く輝き続けてほしいと願うものです。

秋田県立秋田高等学校創立 140 周年、誠におめでとうございます。

(秋田ふるさと応援団副会長)

「秋高創立 140 周年東京同窓会の集い」ご協力御礼の挨拶 実行委員長 二木 猛 (S 39 卒)

7 月 6 日に行われた「140 周年の集い」は 140 名近くの参加者で賑やかに楽しくそして有意義に終えることができました。当日ご参加の皆様、またご協力頂いた皆様方に厚く御礼申し上げます。

秋田北高、秋田工業を始め県内の他高校同窓生の方々、友校の水戸一高の同窓会代表の方、秋高同窓会本部事務局はもちろん仙台支部、茨城支部の皆さん、有難う御座いました。

今回の催事の三大企画が大変好評でした。各世代の代表による「私の秋高時代・・・そしてこれから」シンポジウムは懐かしさと驚きでいっぱいになりました。47 年卒、菊地康正さんのジャズバンド演奏は迫力いっぱいでした。秋高 OB 著作本プレゼントは、この日にふさわしい記念品になりました。これらの総てを通して母校の伝統と革新の力を確認し合う事が出来ました。

この力を来年の秋田国民文化祭へ、そして東京オリンピックの 3 年後の秋高 150 周年記念式典に向けて結集していきましょう。

有難う御座いました。

同期会だより

秋高 昭和58年卒 東京同期会を終えて

青山卯女 S58 卒

真夏の東京7月27日、昭和58年卒業生の熱い宴が催されました。

「東京でも集まろうよ」、誰が言い出したのか定かではありません。正月に秋田で10年ぶりの同期会が開催されたばかりの二月、永田町で同期生 石井浩郎君（参議院議員）のパーティーがあり、有志がなだれ込んだ二次会で、正月の続きをやるべ!と「火種」がともしり実現に至ったのです。

東京集結は58年卒にとって初の試みでしたが、秋田はもちろん全国から駆け付けた総勢47名の旧友が緑の美酒を酌み交わしました。再会の喜びに繰り返される乾杯、昔の思い出話と今だから言える暴露話に盛り上がり、在学中はおそらくなかった「三別」男子と女子の語らい。卒業後31年という時の経過が磁力のように互いの心を引きつけ、友の顔は皆、秋高時代の面影を残し昂揚しました。そしてスライド上映では、卒業アルバム個人写真の前で一人ひとりがスピーチを行い、会場は懐かしさと笑いと大きな拍手に包まれたのです。



校歌斉唱で締めた一次会の後40名が繰り出した二次会では、思いがけずS56年卒業の(憧れの)先輩方が集う有志同期会とご一緒し、秋高生の縁の深さをかみしめながら再び“天上はるかに”を大合唱、三次会は翌朝五時まで続きました。あらためて、今でも旧友と繋がっている喜びを感じます。この絆こそ140年の伝統が築き上げた秋田高校のブランド力だと、いつまでも大切にしよう、あの夜再会した仲間が思ったはずです。

2013年「千秋会」 大人の文化祭 (あの素晴らしい 親父バンドをもう一度)

老松秀明 S44 年卒

「千秋会」は東京にいる秋田高校昭和44年卒の同期会。

平成25年10月19日、土曜日、17時。今にも降り出しそうな空模様であったが、皆が帰路につくまで泣くことを我慢してくれた。

25年前、有志が神田の老舗蕎麦屋に集まったのが千秋会の始まり、

回を重ねるごとに参加人数は増え、秋田からの出席者も加えて40名を超えた。

今回始めて出席した石川、大野、久米、小松のスピーチ。そして食事・歓談と進む中、藤田のギター、加賀谷のバイオリン、田口のピアノが披露された。ギターの音色は地中海の紺碧の空を想像させ、バイオリンの響きは心を和ませた。ピアノは会場をニューヨークのジャズバーに変身させた。和やかな雰囲気の中での語らいは、手形山の校舎、千秋公園、太平山、秋田駅、今は無き金座街等々。そして、第28代鈴木健次郎校長が少年の私達に問いかけた「汝何の為に其処に在り哉」に対する答えは如何にと。「その回答はこれから」と皆まだまだ意気盛ん。

記念撮影の後、会場を地下に移した。完全防音の地下ホールでは昨年結成されたエレキバンドの演奏が行われた。

3年前病魔に襲われた大川は生



きることを半ば諦めていた。辛い治療に耐えながら、また千秋会で皆に会いたいという思いを抱き危機を乗り越えた。そして願いが叶った。彼が音楽好きだったことを知る鈴木(徳)が提案した。「バンドやるべ!」佐々木(康)、秋田から早川夫妻とメンバーはすぐ集まり、昨年初披露した。「親父バンド」からThe G.G. Bandに名前を変えた今年、秋高シャークスで1stギターを務めた岩田、吹奏楽部でトランペットを吹いていた久米が加わった。日頃の練習成果もあり、レベルアップした演奏は素人バンドの域を超えているものであった。

エレキの黎明期に育った私達には懐かしい曲ばかり。アンコールが何回も叫ばれた。「秋高祭」を彷彿とさせる千秋会だった。誰しものが高揚治まらず、急遽バーで二次会が催された。

千秋会会員は少年のように成長し続けている。

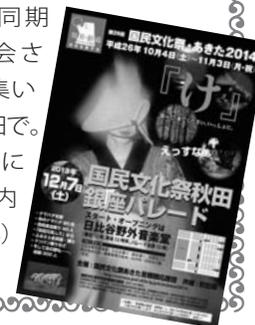


文化を旅する

2014年は文化の国体「第29回国民文化祭あきた」(10月4日から11月3日)が全県下で多彩な行事が行なわれ、全国から100万人が訪れるというBig Yearです。私たち首都圏からもさまざまな方法で参加や多くの秋田を知らない人や秋田ファンを秋田に送り出したいものです。秋高同窓会も加盟している「秋高連」「けやき会」「秋田ふるさと応援団」などで“国文祭あきた首都圏応援団”を16団体で発足し

- ① 2013年12月7日(土)銀座パレードを日比谷野音から
- ② 2014年7月プレ100日前企画イベント
- ③ 開会式10月4日「新幹線貸切文化列車」で300人参加。などの準備をすすめてます。

2014年は同期会、同窓会さまざまな集いを現地秋田で。この期間にぜひ。(武内 暁 S42 卒)



あきこうれん
秋高連だより

「ふるさと訪問」

7月3日～4日、秋高連会員24名参加のもと「ふるさと訪問」を実施しました。

1日目、正午に秋田駅現地集合後、母校秋田高校を訪問、秋高の教育方針

針「品性の陶冶」わが生わが世の天職いかに」をテーマに掲げ幅広い人間教育に努めていることや現状の説明を受けました。同窓会館では、秋

田高校の歴史に見る人物像(先蹤録や140周年特別企画「佐々木毅展」を見学しました。

次に能代松陽高校(能代商業高校と能代北高校との統合校)を訪問、その後秋田駅で現地解散、無事「ふ

教育理念等の説明を受け、新校舎と授業風景・クラブ活動の見学をしま

した。新校舎は、木材がふんだんに使われ、暖かさが感じられました。

2校訪問後は、八郎潟・寒風山経由男鹿温泉郷に直行、温泉と大懇親会

2日目は、入道崎・八望台・男鹿スライオンを観光、「秋田県水産振興センター」と「秋田国家石油備蓄

基地」を訪問見学しました。最後に県庁を訪問、高校教育担当か

らの説明、県議会議場の見学、佐竹知事との懇談、知事を囲んでの記念

撮影を行いました。

大野省治 S42卒



エス イミグランテス サンパウロ州農務局施設で、参加者は、約600名。日本企業36社に対するサンパウロ州からの表彰や、ブラジル大統領からのメッセージ等もあり、盛大な式典であった。

この式典を始め、街中で多く現地の人々と会って感じたのは、日本人及び日系人のブラジル社会に於けるステイタスの高さでした。これは、日本人及び日系人の教育の高さと勤勉・誠実さに対するブラジル人の信頼の高さによるものだと、ある現地人に教えられました。日本人のまじめさの成せることだと感じ入って帰って来たのです。ブラジル人のジョークで「ヨーロッパ人は、教会を作るが、日本人は、学校を作る。」と言うそうですが、諸なるかなと思った。

今回のブラジル訪問で、「外国で日本人の勤勉・誠実さを教えられた」という感じでした。井の中の蛙にならぬ様、客観的視点を持たねば成らないと肝に命じたものです。

ブラジル(サンパウロ)訪問記

伊藤清信 S37卒

偶然にも秋高OBが4人いたので、川合さんは、今回の「ブラジル日本 戦後移住60周年祭」式典の執行委員長で、一行の招待責任者でもあったのです。

一行は、「60周年祭」式典に参加する前、イグアスの滝(アルゼンチン側)を、一日見学して帰り、又、サンパウロ市内で、日本庭園のあるイピラプエラ公園内の開拓者慰霊碑へ参拝し、セー大聖堂を始め、市立市場、日本移民資料館、イピランガ公園等市内を、一日見学をした。

これらの行事が終わり、帰国前日よいよ「60周年祭」式典へ参加した。会場は、エスボジソン

2013年7月14日から22日迄、ブラジル日本都道府県連合会の招待で、「ブラジル日本 戦後移住60周年祭」式典に出席する為、ブラジル(サンパウロ)へ行って来ました。一行は8名。この8名の中、私を含め3名が、秋高OBと言うことでした。

それに現地ブラジル秋田県人会々長川合昭さんも秋高OBで、



元幹事長 岩川作丕圖(さくひと)さんを偲んで

秋田高校東京同窓会、元幹事長岩川作丕圖さん(S39卒)は、平成25年8月17日病気のため逝去されました。

岩川さんは平成12年から幹事長を務められ東京同窓会の発展に大きく寄与されました。「学生と社会人との交流会(就職懇談会)」や、新年の「賀詞交歓会」を実行し、若い人々の同窓会活動への参加を促進しました。

また先輩税理士として、その後、現幹事長の鎌田進さん(S47卒)、会計幹事の伊保谷徹さん(S59卒)等、多くの同窓税理士の先がけとなりました。

同期生として大変無念ではありますが、故人の遺志を継ぎ同窓会活動をさらに発展させていきたいと決意しています。

前幹事長 二木 猛(S39卒)

「けやき会・秋田ふるさと応援団だより」

秋田市内高校同窓会や新屋地区を中心の秋田市支援「けやき会」は、本年も11月24日の穂積市長をはじめ二〇〇名参加の市政情報交換会や、ゴルフ会、浅草秋田市PR支援などに参加。粉後はもつと来年の「国文祭あきた」への参加など「秋田市PR」や相互交流につとめます。

「垣根を越えて首都圏全国大会出場校応援を」の秋田ふるさと応援団し四年目を迎えます。「東京国体」参加や各スポーツ応援、第3回チャリティイベント(八月三日)などに参加してきました。

秋高の全国大会出場(甲子園、花園など)を待ち望み、他校の「オール秋田」応援に汗をかいています。団員募集 中 武内暁 S42年卒



25年度
会費納入者一覧
(平成25年10月31日現在)

昭和16年 橋本 彰夫
昭和20年 大友 英一
昭和20年 小玉 保次
昭和20年 田添 達夫
昭和21年 加藤日出男
昭和21年 那小屋 豊
昭和22年 加藤 三朋
昭和23年 明石 康
昭和23年 高村 勉
昭和23年 星野 恒雄
昭和25年 神崎 泰雄
昭和25年 菊池 巖
昭和25年 中崎 致和
昭和26年 五十嵐泰弘
昭和26年 伊藤 隆
昭和26年 小熊 巖
昭和26年 鈴木 協一
昭和26年 奈良 毅
昭和27年 石山 喜章
昭和27年 加藤 明男
昭和27年 坂本 則卓
昭和27年 佐々木長雄
昭和27年 高橋 恒雄
昭和28年 瀬下鉄五郎
昭和29年 久司 正夫
昭和29年 小山孝之助
昭和29年 武藤 實
昭和30年 秋山 文平
昭和30年 大塚 正民
昭和30年 澤湯 明
昭和30年 那須 秋男
昭和30年 西山 恪朗
昭和30年 早川 輝夫
昭和30年 保坂 邦雄
昭和30年 柳原 保邦
昭和30年 横山 樹静

昭和31年 相場 三郎
昭和31年 伊勢 諒吾
昭和31年 大本香津子
昭和31年 柿崎 正
昭和31年 佐々木 行
昭和31年 佐々木 洋
昭和31年 佐藤 公隆
昭和31年 高橋 壽夫
昭和31年 寺山 誠行
昭和31年 中川 信夫
昭和31年 原田 善治
昭和31年 町田 睿
昭和32年 小笠原英之
昭和32年 男鹿谷和美
昭和32年 小柳 輝芳
昭和32年 栗原 洋子
昭和32年 佐藤 正親
昭和32年 田代 勝己
昭和32年 戸嶋 成忠
昭和32年 松田 祥男
昭和33年 熊谷光太郎
昭和33年 近藤 芳行
昭和33年 斎藤 信雄
昭和34年 小沢 暁民
昭和34年 笠井 重厚
昭和34年 桑原 裕子
昭和34年 佐藤 宏二
昭和34年 佐藤 紀英
昭和34年 白井 邦雄
昭和34年 西木 正明
昭和34年 船木 孝雄
昭和34年 武藤 良孝
昭和34年 山田 僖子
昭和35年 梅崎 克己
昭和35年 小泉 忠一
昭和35年 吹浦 忠正
昭和35年 横山 信
昭和36年 大島 斐子
昭和36年 佐々木 毅

昭和36年 須磨洋次郎
昭和36年 田口 平治
昭和36年 船木 茂
昭和36年 松岡 直昭
昭和36年 村山 公士
昭和36年 森川 毅
昭和36年 渡邊 東
昭和37年 伊藤 清信
昭和38年 荒谷 紘毅
昭和38年 伊藤 博康
昭和38年 加賀谷寿孝
昭和38年 佐々木常夫
昭和38年 東海林 晃
昭和38年 鈴木 宣正
昭和38年 高田 斉
昭和38年 武田 義之
昭和38年 千葉 邦雄
昭和38年 定 夏井 毅
昭和39年 明石貞一郎
昭和39年 阿部 信泰
昭和39年 伊藤 博道
昭和39年 大澤 健
昭和39年 倉泉 信夫
昭和39年 桑名 斉
昭和39年 佐々木偉義
昭和39年 佐々木正徳
昭和39年 佐々木泰幹
昭和39年 佐藤 二郎
昭和39年 進藤 晃男
昭和39年 高橋 理輔
昭和39年 高村 國男
昭和39年 原田 幸雄
昭和39年 二木 猛
昭和39年 安田 恭子
昭和39年 山下 恵司
昭和40年 伊藤 弘人
昭和40年 大森 秀昭
昭和40年 岡本 宣子
昭和40年 加藤 弘次

昭和40年 鎌田 政朋
昭和40年 河田 章
昭和40年 佐々木真美
昭和40年 佐藤 三郎
昭和40年 橋本 五郎
昭和40年 矢尾 牧夫
昭和40年 山田 義昭
昭和41年 大槻 幸一郎
昭和41年 加藤 貢
昭和41年 佐藤 茂範
昭和41年 佐藤 義春
昭和41年 猿谷 彰
昭和41年 田口 佳孝
昭和41年 成田 憲明
昭和41年 緑川 稔秀
昭和41年 渡邊由美子
昭和42年 大野 省治
昭和42年 大森 正高
昭和42年 金子 忠敬
昭和42年 佐藤 貞直
昭和42年 渋谷 潔
昭和42年 清水 光雄
昭和42年 武内 暁
昭和42年 長谷川 猛
昭和42年 吉村 和就
昭和43年 飯野ゆき子
昭和43年 小柳 清光
昭和43年 金田 勝年
昭和43年 神坂 光
昭和43年 菅野 庄一
昭和43年 小島 良子
昭和44年 五代儀俊悦
昭和44年 尾形 均
昭和44年 木村 泰博
昭和44年 高橋裕次郎
昭和45年 東海林和彦
昭和46年 明石 哲夫
昭和46年 鎌田 仁
昭和46年 小泉 精

昭和46年 東海林幹夫
昭和46年 成田 裕一
昭和46年 藤川 長敏
昭和46年 前川 仁
昭和47年 加賀谷博史
昭和47年 鎌田 進
昭和47年 菊地 康正
昭和47年 工藤 敏夫
昭和47年 佐々 誠一
昭和47年 進藤 裕
昭和47年 中谷多佳子
昭和47年 古村真理子
昭和48年 荒川 利治
昭和48年 石川 俊明
昭和48年 大橋 朗
昭和48年 榊 純一
昭和49年 白石 好
昭和49年 武田 啓介
昭和49年 館山 英昌
昭和49年 松井 利一
昭和50年 今野 仁
昭和50年 佐々木幸哉
昭和50年 清野多賀子
昭和50年 平野 春夫
昭和50年 渡邊桃伯子
昭和51年 鈴木 香
昭和52年 鈴木 久彰
昭和53年 遠藤 勇人
昭和54年 亀ヶ谷律子
昭和54年 小玉 正志
昭和54年 小柳 宏
昭和54年 斎藤頼太郎
昭和54年 佐々木 真
昭和54年 牧内佳奈子
昭和55年 加藤 仁
昭和56年 大谷 信之
昭和56年 佐藤 恵
昭和57年 佐々木秀広
昭和58年 青山 卯女

昭和58年 岩切 直子
昭和58年 工藤 亨
昭和58年 児島みゆき
昭和59年 伊保谷 徹
昭和59年 諸井 政典
昭和60年 大窪 克之
昭和60年 佐藤 直子
昭和60年 佐藤 映
昭和60年 高島 知行
昭和60年 富樫 真
昭和60年 中嶋 京一
昭和60年 西尾 薫
昭和61年 齊藤 敬
昭和62年 保坂 英明
平成01年 諸橋 公喜
平成02年 佐々木広人
平成04年 佐藤健太郎
平成05年 石川 真紀
平成05年 土井 英司
平成06年 桑原 卓
平成09年 神谷 了
平成11年 大瀧 洋
平成11年 佐々木孝広
平成11年 三浦 暢子
平成12年 伊藤 宏樹
平成13年 斎藤賢太郎
平成15年 淡路 達人
平成15年 須田 紘彬
平成15年 山田 晃史

秋田本部同窓会事務局日誌

寺田和夫事務局長が、9月30日付で退任しました。その後任として、10月1日から局長代行を委嘱された46年卒佐藤英明と申します。よろしくお祈いします。

140周年記念式典・祝賀会は、9月1日、成功裡に無事終了いたしました。東京同窓会の皆様からも多大なご協力を得、この場をお借りし、心から感謝いたします。

式典は厳粛なセレモニー・大変評判のよかった橋本五郎東京同窓会長の講演、最後は素敵なブラバン演奏でした。

祝賀会はエネルギーなご挨拶。応援団OB「紫紺の会」による校歌・校友会歌。年次を中心に盛り上がりを見せた祝宴。最後は400名を超える同窓が肩を組んでの校歌再斉唱と万歳三唱でした。特に趣向はありませんでしたが、皆さん大変満足してお帰りいただけたようです。

秋高パワー全開の一日でした。
同窓会事務局局長代行 佐藤英明

幹事長だより

平成25年9月1日に我らが母校秋田高校の140周年記念式典が秋田県民会館ホールにて執り行われ、東京同窓会からも有志が出席しました。千秋公園の蓮の花が満開に咲き誇りお祝いに花を添えていました。7年後の2020年オリンピック招致が決まり、14年後にはリアモーターカーが品川～名古屋間を時速550kmで走ることが決まりました。景気の回復が本調子になることでしょう。来年の賀詞交歓会は今までになく「宮田陽・昇」の漫才でお楽しみいただきます。どうぞ友人をお誘いあわせの上御出席下さいませ。

鎌田進 S47 卒

会費納入のお願い
本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願い致します。このページには本年度の会費納入者を掲載しております。会費が未納の方は、是非本会報に郵便振込用紙を同封いたしましたので、年会費3,000円のお振込みをお願いいたします。今年度会費納入済みの方に、重複して振込用紙が同封されている場合は、申し訳ありませんが、破棄してください。郵便局の口座記号番号は次のとおりです。
00150-0-353596
「秋田高校東京同窓会」